発行№１６２号 無限の可能性を追求する青春金物店 日本一金物 発行月日 平成２２年5月２０日

あっという間に、もう六月号の発刊、初夏の香りが匂うこの頃ですが、皆様お変わりありませんか？

五、六年前にも載せた記憶がありますが「これでいいのか？今の日本」過去に多くの大国が衰退して行った中で、いきなり没落といった天災ならいざ知らず、迫り来る衰退の兆しに、数々の改革策が講じられ大論争を交わしながら、その果てに没落して行った国も数あるのですが、なぜ的確な手を打てなかったのか、それはそれまでの長い成功？を支えてきたシステムを変えることが難しかったからなのか？

今、日本も新世紀に、大きな改革をと期待されて十年が経ち、進歩が伺えたと思えるでしょうか？

昨今の各新党の乱立、各々〜おのの〜の我侭な自己の醜い剥き出しの論争、各派の貶し合い、国民のことなどまったく意に関しない、辛苦の塩を味わったことのない坊ちゃんの集まりだから、と言われればそれまでだが、明治維新、我が身を捨て建国日本に生きた偉人たち。

第二次世界大戦、祖国日本のためにと二十歳前後若者が太平洋の藻屑と消えた尊い勇者の命。そんなことを考える時今、国会での論争はバカげたこと、なぜ全者纏まり、党派超えての話し合いが出来ないものなのか、不思議に思うのは私だけではないだろう？

戦後、自分さえ良ければの風潮の進化がそうさせているのだろうか。

今こそ日本古来の誇りある武士道気質が、国民が推した一人ひとりが、身を挺する時なのだ。

税が、まったくムダになってしまうのだ。

「６０年目のボーナス…で、店舗化粧」

ジリリーン電話が鳴った。社会保険事務所からだ。

「山本弘さんですか？」

「ハイ、そうです」

「昭和２５年４月から、２年８ヶ月、こういうところに勤めてましたか？」

「ハイ、勤めてましたが」

「厚生年金を掛けてた分の年金が増えるという話の内容は当時、６０年前、勤めたところは、１０人足らずの小さな会社だ。あぁ、それでも社長は掛けてくれていたんだ。

「アンビリバボー」だった。

中学を卒業、進学か就職か、家の状況から迷わず就職を選んだ。戦後の食糧難、母の衣服は食料に化け、ろくに衣服の一枚の洋服でも買ってあげたかった。

私と弟妹たちの胃袋に収まった。

念願かなっての就職だ。初任給は封筒に千円札２枚と、五百円札が１枚、明細書もなく入っていた。

買えない母に一枚の洋服でも買ってあげたかった。

２，５００円は、初めて手したお金だった。その日頃、弟妹を叱りつけ、あまり笑顔のない母が、ほくそ笑んだ。

日頃、弟妹を叱りつけ、あまり笑顔のまま母に渡す。

今もって脳裏に忘れ暫くして、社会保険から書類が送られてきた。記入欄満載の書類に、当時を思い出し乍丁寧に書き込んで送り返した。

半信半疑のまま三ヶ月が過ぎた頃、電話があった「書類は受理されました。一年位掛かりますが、支払い可能です」と。

それから八ヶ月ほど経った後、１０年分の滞納金、所定の銀行に振り込むとの連絡が入った。百十数万、の滞納金の明細書が送られてきて、後日銀行に振り込むと書き添えてあった。

振込み通知書が届いたとき、逝ってしまった母が無性に恋しく想い出され、このお金で何かして上げれたのに、そんな思いが胸を苛んだ。

晩年の母は、「長男のお前に、苦労をかけた」が口癖だったが、中島店を新築した時は、母の見たこともないような悦びようだったのを思い出し、知り合いの塗装屋さんに頼んで店舗の全面塗装をお願いした。

今、店の前面は明るいオレンジ色。塗られた当初は「ハデかな？」と思ったが、朝日の反射で放つ輝きは、母が目一杯笑った顔で、私たちを見守って、見ているような気がしたならない。母の日、記

Hitachi Koki
POWER TOOLS for PROFESSIONAL
㈱北海道日立 函館支店
函館市西桔梗町 858-5 TEL48-6411

Makita
ヒーマンハードウエアの
㈱マキタ函館営業所
北斗市七重浜 7-3-12 TEL49-9273

MAX
使う人の声を製品にする
マックス
札幌市中央区大通り東6丁目12-18
TEL(011)261-7141